

水あれこれ



主婦連合会

副会長

和田正江

Masae Wada

東日本大震災による長期間の給水ストップや、下水道設備使用不能による被災者の方々の大変なご苦労と、今までに見たこともない大津波の映像に、水の大切さと恐ろしさを知らされた。

先年南仏のプロヴァンスを旅した折に、ポン・デュ・ガール水道橋を訪れた。ニームへの導水路で、流量は1日2万m³だった由。三層のアーケードから成る橋は紀元前40年ごろの建築と聞き、当時も今も水の重要性は同じと痛感した。旅の間ペットボトルの水で過ごし、帰国して蛇口からの水を有り難く飲んだ。私は高度浄水処理された東京の水を愛用し、昨夏の猛暑の熱中症対策にもマイボトル持参で対応した。

蛇口からの水を飲めるのは有り難いが、その水を洗濯、風呂、トイレにも使っているのは何とももったいない。主婦連合会の事務所のある主婦会館は、一部だが雨水を利用している。中水利用はたやすいことではないと聞かすが、中水利用、海水の淡水化など日本の技術に期待したい。

「世界人口の60%を占めるアジア地域に、世界の水の36%しか存在しない」「水災害による死者数の80%以上がアジア・太平洋地域の人々である」「インドのトイレなし人口は6億人強、携帯電話より低いトイレ普及率」などの情報に心が痛み、2003年京都での「世界水フォーラム」の「子どもの分科会」で「私たちは水汲みに遠くまで往復するのに、このホテルのトイレでボタンを押したら水が流れた」と訴えた女の子が目に焼き付いている。

消費者は「水」というと「上水」を思い浮かべるが、下水道の施設管理も重要である。主婦連は先日、埼玉県三郷市の「中川水循環センター」を見学した。施設の大半が地下にあるので直接目にするものは少ないが、見学して高い技術による下水処理施設の維持管理がよくわかった。処理場に入ってくる汚水が多段階の処理工程を経てきれいな処理水になるのを目の当たりにして、私たちが、小皿一皿分の醤油(15ml)を下水に流せば、その汚れを生き物が住めるような水に戻すためには、お風呂(300ℓ)1.5杯分の水が必要になると知ってはいたが、消費者の責任の重さを再認識した。

水といえば井戸も貴重な水資源であり、私の家の井戸も、災害に備えて久し振りに水質検査を受けた。10項目の検査にパスしたが、都会で汚染の懸念がないとはいえず飲食への利用は控えているが、地区の災害マップに記入するとのこと。お役に立てればとは思いつつ、一方でそんな日が来ないように願わずにはいられない。

私たちの生活に欠かすことのできない大切な水。私たちは一滴の水も無駄にせず、不用意に汚さないよう心がけよう。水に恵まれた日本に感謝し、世界に目を向けよう。

官民それぞれに、優れた日本の技術を活かし、さらに発展させて、生活環境、地球環境の改善に尽くして頂きたい。